

日本オーディオ協会、この10年の軌跡

■ 藤本 正照 元日本オーディオ協会専務理事

1. はじめに

日本オーディオ協会は、創立50周年行事が行われた2001年から10年が経過し、人なら還暦にあたる創立60周年を迎えた。この10年間は90年代バブル経済崩壊の後遺症が癒えぬなかで、2007年のサブプライム危機、2008年のリーマンショックによる世界同時不況、そして2011年には東日本大震災・原発事故という容易ならぬ社会・経済環境下にあった。しかし、協会は会員と関係者各位のサポートによって還暦にふさわしく、折からの法人制度改革に対処して2011年4月1日に一般社団法人として再出発をはたすことができた。

振り返れば、LPレコードが開発されて間もなく、日本でも先覚者達によるハイファイデリティ探究が始まり、ステレオの黎明期である1952年10月4日に中島健蔵氏や井深大氏の尽力で日本オーディオ協会の前身である日本オーディオ学会が創立され、会員の交流や研鑽とともに、音の祭典「オーディオフェア」を開催してオーディオ技術ならびに文化の普及・啓発に努めた。

80年代はCDを中心にしたデジタルオーディオの啓発を行い、オーディオ産業も1988年ごろにピークに達し、音と映像のビデオディスクの出現などでオーディオ・ビジュアル分野（A&AV）も活動範

囲に加えて1992年7月1日に社団法人に改組され中島平太郎会長が就任された。

このように20世紀後半の50年間、協会はオーディオの普及・啓発という所期の役割を果たしてきたが、少子高齢化、ライフスタイルの多様化、オーディオ商品のコモディティ化、音楽再生手段の情報・通信分野へのひろがり急速に進むなかで21世紀を迎える。ここで改めて存続のあるべき姿が真剣に論じられ、協会運営全般の見直しが行われた。展示会も50回目にあたる「オーディオエキスポ2001」を開催した次の年を1回ブランクとして出直すこととなった。こういった状況下の2002年4月に鹿井信雄会長が就任された。

以降、諸般の事情による会員減少と財務低迷のなかでも、ネットによる情報発信手段を整備し、展示会「A&Vフェスタ」や各種イベントの開催と合わせて、放送のデジタル化・通信のブロードバンド化・パッケージメディアの大容量化時代のオーディオについての知識の向上と上手な利用法を多くの人達に伝えることに努めてきた。

2008年6月に校條亮治会長が就任され、協会設立の理念である「良い音を、良い環境で」の飽くなき追及に立ち返り、展示会を秋葉原に移しての「オーディオ&ホームシアター展」での「音のサロン」や各種セミナーの開催など、国内に健全なオーディオ市場を再構築する活動強化に取り組んでいる。

本稿は協会創立60周年にあたり、この間に微力ながら協会運営や機関誌編集に携わった者として、2001年から現在までほぼ10年間の協会の動きを記録に留めるものである。

■ 筆者プロフィール



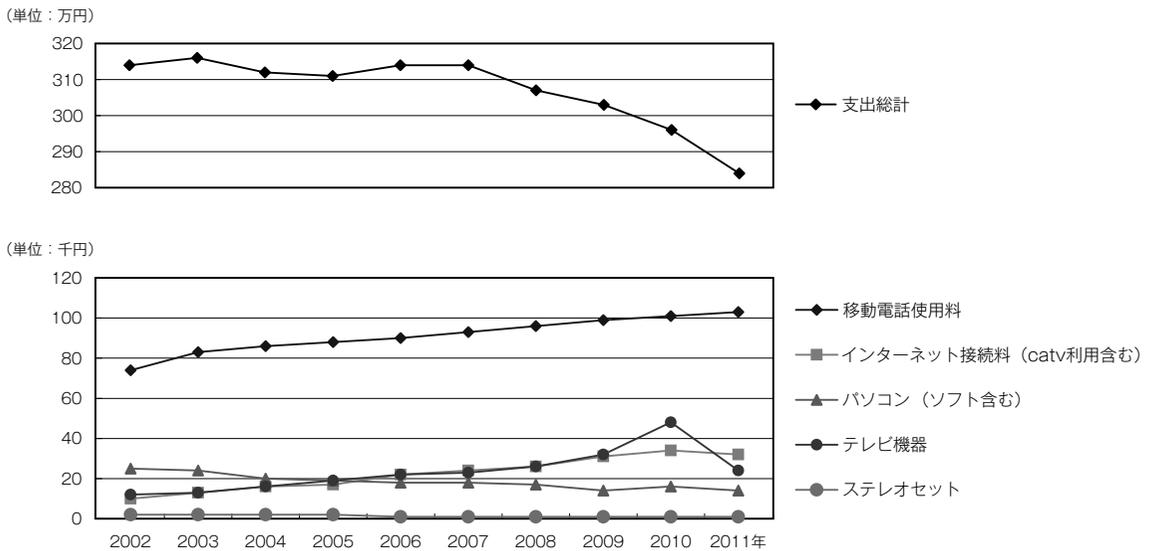
藤本 正照（ふじもと まさひろ）
略歴
1959年慶応義塾大学工学部卒業、日本ビクター株式会社入社。1983年同社音響技術研究所長。1993年常務取締役。1999年同社退任。2002年社団法人日本オーディオ協会専務理事。2009年退任。1989年から『JASジャーナル』編集委員に加わり、1999年1月から2009年6月まで編集委員長を務める。

2. 環境変化と協会経営

2002年から2011年にかけての世帯あたりの年間消費支出のうち、A&AVに関連する項目のグラフを図1に示す(総務省統計局：家計消費状況調査から)。支出総計は長引く不況と震災によって低迷し、さらに下降した。その中でも携帯電話の使用料は突出し、インターネット接続料ならびにデジタル化の恩恵を受けたテレビの購入代金は伸び、ステレオは世帯あたり僅か年間2,148円から696円にまで減少し

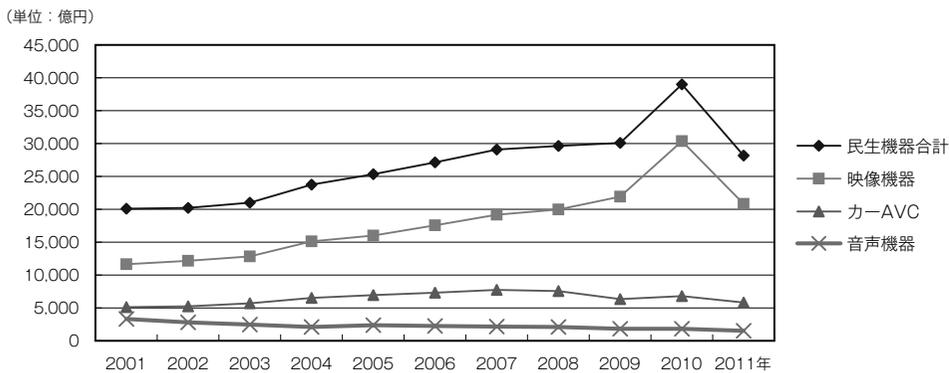
た。ADSL(データ転送速度数Mビット/秒)やFTTH(同100M~1Gビット/秒)、第3世代移动通信(同2Mビット/秒)の普及とデータ圧縮技術の進歩によるエンタテインメント・情報への支出の変化の様相を読み取ることができる。

商品の供給側では、電子情報技術産業協会(JEITA)の統計を見ると、音声機器出荷額が2001年に対して2011年にはほぼ半減している。一方、映像機器はDVDや薄型デジタルテレビの追い風で倍増に近い。音声機器の出荷台数ではこれほどまでの



出典：総務省統計局家計消費状況調査から作成

図1 1世帯当たり1年間の支出



出典：電子情報技術産業協会

図2 民生機器の国内出荷金額

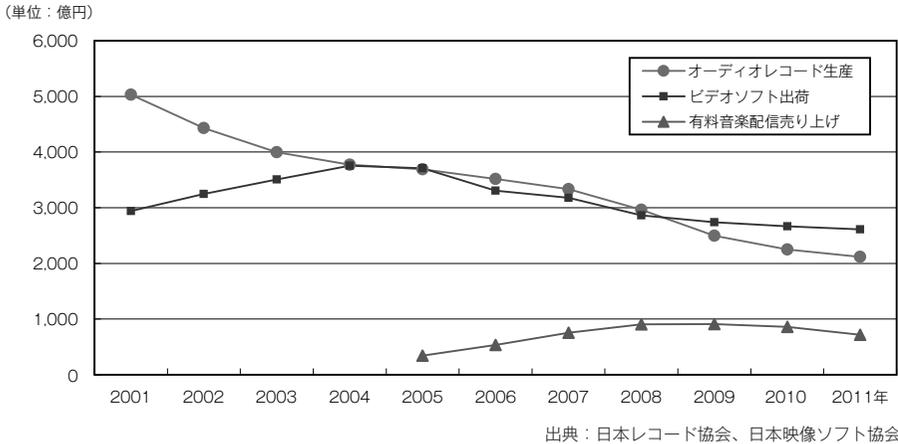


図3 ソフトの生産・売上高

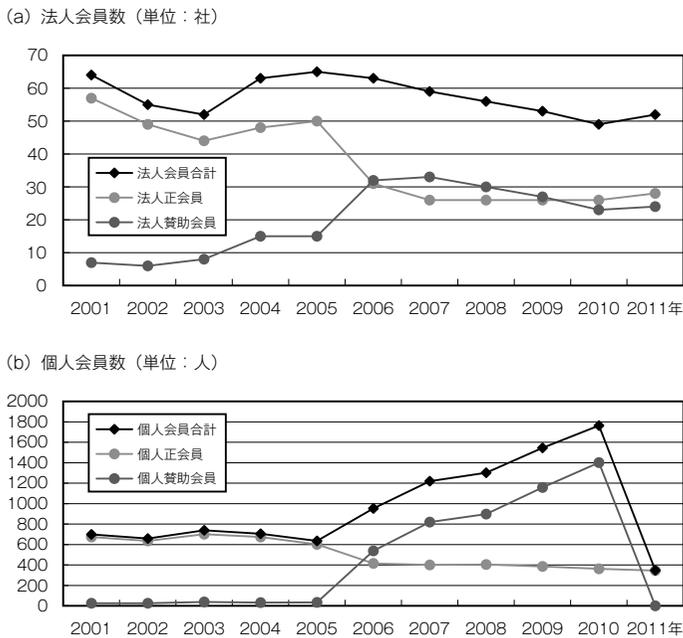


図4 法人・個人会員数の推移

減少はなく進化による価格低減も影響している (図2)。

日本レコード協会の統計によると、オーディオレコードの生産金額は2001年5,031億円に対し、2011年は2,117億円と42%の規模に減少し、有料音楽配信売り上げが720億円に伸張している。日本映像ソフト協会の統計によるビデオソフトの売り上げと合わせて図3に示す。

2001年の「iPod」(米Apple社)の出現が象徴するように、音楽聴取手段の構造が大きく変化する状況下で、日本オーディオ協会の経営状況を示す会員数と収支は、この10年間で図4、図5のように推移した。

遡って1991年期末には法人会員が95社、個人会員が861名であった。しかし、大手電機法人のオーディオ撤退、外資系法人の退会などで漸減し、2001年以降も歯止めがかからなかった。

収入では2001年から2006年までの特別収入に依るところが大きい。これは私的録音補償金の中からの展示会開催に対する助成金の交付と、副会長社による協会職員の出向支援および特別会費の拠出のおかげであり、固定費の削減努力と合わせて収支のバランスが保てた。

総じて収支に展示会の占める割合がで、規模を追う展示会ではリスクが大きかった。しかし、2009年の秋葉原での展示会開催以降、規模より中身を重視してセミナーやイベントも順次充実し、収支バランスも改善されてきた。それでも協会の収支は依然として低空飛行であり、2012年策定の中期事業計画の実行による健全化を期待したい。

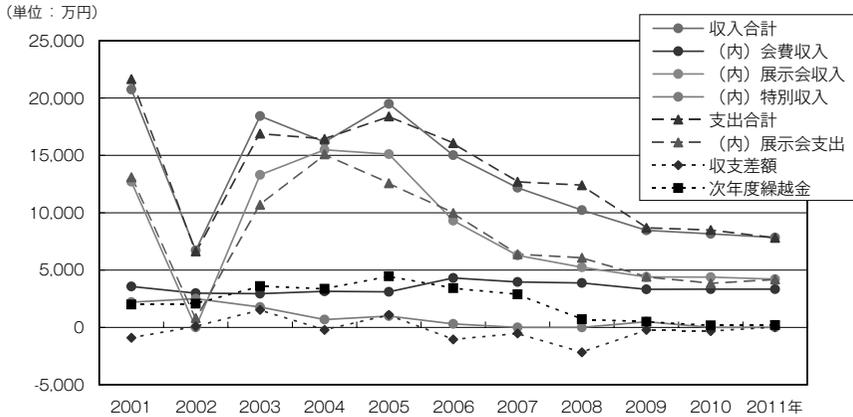


図5 収支の推移

3. この10年間の協会活動の履歴

2001年から2012年までの協会活動を事業報告書に基づいて年表として編纂し、付表1～4にまとめた。網羅できていない点はお許しいただきたい。以下、主要項目についてレビューする。

(1) 協会運営

鹿井会長は、協会のミッションを「より良い音の視聴環境形成の啓発と普及をカスタマーに向けて行い、オーディオ生活文化の向上をはかること」とされ、情報発信の電子化や展示会、イベントの開催による多くの人達を対象としたオーディオの普及・啓発に力点を置かれた。

これら活動の財源は会費で賄われるが、会費拠出に見合った協会活動と会員への還元が行われているかが協会運営のチェックポイントであり、会長と副会長による企画会議や理事による運営会議で議論され、展示委員会、会員委員会、普及推進部会、事業・財政検討委員会、編集委員会などの各担当委員会が改善策の具体化作業を担当した。しかし、協会活動におけるオーディオ・ビジュアルの比重が高まり、オーディオ本道への取り組みが疎かになっていないか、なども課題の一つであった。

校條会長は就任時に「四つの融合」(①プロの匠とマニアのこだわり、そしてビギナーの憧れの融

合、②携帯オーディオとホームオーディオの融合、③2chオーディオとサラウンド・サウインドの融合、④デジタル技術とアナログ技術の融合)を活動の柱として打ち出し、專業部会、デジタルホームシアター普及委員会、第3世代オーディオ普及委員会、生録普及委員会などを編成して業界

パワーを集め、かつソフト、通信など関連業界とのコラボレーションも強めて新しい市場を創りオーディオの活性化をはかる動きを始められた。

公益法人制度改革によって、2008年12月以降5年以内に公益社団法人としての存続を申請し裁定を受けるか、一般社団法人を選択するかも重要課題であった。2010年6月の定時総会で一般社団法人としての存続が議決され、2011年4月1日に新法人の一步を踏み出した。

(2) 普及・啓発活動

音楽聴取手段が多様化する中でイージーリスニングの傾向が強まり、オーディオカスタマーが従来からの愛好家と二極分化するのに対して、「もっと良い音で聴きたい」に目覚める中間層づくりを目指した普及・啓発活動に取り組んだ。

プロモーションのテーマは視聴体験機会の提供、サラウンド・サウンドの啓発、青少年へのアプローチなどであった。サラウンド・サウンドについては放送業界の方々のバックアップをいただきながらJEITAとの連携活動を行っている。放送のオールデジタル化を機に、ホームシアター普及・啓発の一環としての取り組みに進化してきた。青少年へのアプローチではフォステクス・カンパニー、パイオニア(株)、ソニーイーエムシーエス(株)などのサポートによる工作教室などが好評で多くの少年達に音とオー

オーディオの知識を伝えている。

デジタルオーディオプレーヤー、ネット・PCオーディオなど、業際の幅が広く、かつ進化のテンポが速い分野の普及・啓発活動の的のしぼり方は大きな課題であり、展示会で“より良い音で聴こう”の特設コーナーを設けるなどで対応してきた。2009年にモバイルオーディオ推進協議会が発足し、また2012年にPCオーディオ入門講座が開講されるなどの活動が始まっている。

(3) 展示会

創立時の「オーディオフェア」開催以来、協会は音の文化と技術ならびに商品を見て聴いていただく音の祭典の主催を継続している。オーディオ・ビジュアル時代を迎えてJEITAなどが主催するCEATEC（2000年以前はエレクトロニクスショー）との差異や、他のオーディオ関連展示会との並存が問われもしたが、2009年に会場を秋葉原地区に移し（表1）、イベントやセミナーの充実や電気街との連携などで多くの若い人達も来場する「音展」として再出発した。

(4) 情報発信

1958年に機関誌『オーディオ協会誌』が発刊され、1979年に『JAS Journal』と改名、定期刊行物として会員に配布されてきた。2004年以降は、ネット配信環境の整備が進み、協会ホームページや展示会の告知、サ라운드啓発のためのホームページの開設に続いて、さらに多くの人達に情報を伝える目的で、2006年4月号から『JAS Journal』をネット配信に切替えた。『JAS Journal』は、2012年11月号現在で通巻418号となり、日本のオーディオ技術と文化の記録として貴重なアーカイブ資料となっている。

(5) 調査研究・基準作成

2001年にメモリーオーディオの音質評価法を検討するデジタル圧縮オーディオ検討委員会が発足し、JEITAに評価用音源を提案して2004年にJEITA暫定規格「メモリーオーディオの音質表示」が制定された。しかし、残念ながら海外製品も多く標準化には役立っていない。

2003年にはAA・AV部会がサ라운드・サウンド啓発のためのホームページ記事制作に協力した。

表1 展示会の開催履歴

開催日	展示会の名称	会場	出展社数	入場者数	備考
2003・10・23~26	A&Vフェスタ 2003	パシフィコ横浜展示場	83	62,842	楽器フェアと同時開催
2004・09・22~25	A&Vフェスタ 2004	パシフィコ横浜展示場	79	65,948	
2005・09・21~24	A&Vフェスタ 2005	パシフィコ横浜展示場	84	66,240	
2006・09・21~24	A&Vフェスタ 2006	パシフィコ横浜展示場	67	60,382	
2008・02・23~25	A&Vフェスタ 2008	パシフィコ横浜カンファレンスセンター	59	33,060	
2009・02・21~23	A&Vフェスタ 2009	パシフィコ横浜カンファレンスセンター	58	26,858	生録会をPASと共催
2009・11・13~15	オーディオ&ホームシアター in AKIBA	UDX、富士ソフトアキバプラザ他	65	25,300	電気街とコラボレーション
2010・11・21~23	オーディオ&ホームシアター展 TOKYO	UDX、富士ソフトアキバプラザ他	74	28,700	
2011・11・21~23	オーディオ&ホームシアター展 TOKYO	UDX、富士ソフトアキバプラザ他	75	26,600	

デジタルホームシアター普及委員会のワーキンググループ2では2009年4月から2010年4月にかけて一般家庭におけるマルチチャンネルスピーカー配置の実態調査と音響的評価基準の研究を進め、音質評価実験に基づき日本の家屋事情に合ったサラウンドスピーカー配置ガイドラインを制定し日本音響学会などで発表された。

第3世代オーディオ普及委員会はモバイルオーディオ推進協議会と協力し、配信音楽の外部機器への転送においてレベルコントロールなどオーディオ性能に関する部分が機器ごとにばらついていることに注目し、2011年にモバイルオーディオ・チェックコンテンツの配信提供を始めた。

(6) 人材育成

2009年7月にデジタルホームシアター普及委員会が発足し、ホームシアターの総合的知識を有するアドバイザーの人材育成を目標として鋭意教材を整え、2010年9月に「DHT (Digital Home Theater) インストラクター講座」と「デジタルホームシアター取り扱い技術者資格制度」が生まれた。2012年3月末までに61名の資格認定者が誕生しており今後の実務での活躍が期待される。

(7) 顕彰

1986年の創立35周年記念行事として「日本オーディオ協会賞」を設け、以来5年おきにオーディオ・ビジュアル関連の技術開発と実用化や標準化ならびに音響文化の発展に貢献した日本あるいは海外の組織または個人に「日本オーディオ協会賞」を贈呈している。

2008年1月の55周年記念行事においては守谷健弘殿、浦野丈治殿、大賀典雄殿、阿部美春殿、フォスター電機株式会社殿に「日本オーディオ協会賞」を贈呈した。

1994年に日本レコード協会、日本音楽スタジオ協会などと手を携えてトーマス・エジソンが錫箔蓄音機「フォノグラフ」を発明した12月6日を「音の日」として制定した。1994年以降「日本プロ音楽録音

賞」顕彰を共催で行っており、1996年以降は音を通じて技術や文化に貢献した方々を「音の匠」として顕彰しており、この10年間も継続実施して音の文化の振興に貢献している。

4. むすび

LPレコード・Cカセット・FM放送を主要な音源としたアナログ時代を「第1世代」、これにCD・MDのデジタル音源が加わったアナログ・デジタル混在時代を「第2世代」とすると、この10年はアナログ・SA-CDなど高音質音源も加わったデジタル・符号化音源配信の「第3世代」に突入し、ハイエンドからモバイルまで、ホームシアターからヘッドフォンまで、ステレオからサラウンドまで聴き手の聴取手段が多様化したといえる。

次なるディケードにおける協会の役割は、2012年5月に中期事業計画検討委員会が答申した中期事業計画にあるように、これら多様化したカスタマーそれぞれが「今より、良い音で聴こう」と工夫したくなる動機付けとアップグレードの手ほどきであろう。

度々のターニングポイントにおいて「オーディオの灯は消さない」との諸先輩の想いで還暦を迎えたが、これからも協会関係者が手を携えてオーディオ技術・産業・文化を再活性化されることを願うものである。

付表1 日本オーディオ協会の歩み (2001~2003年)

	2001年 (平成13年)	2002年 (平成14年)	2003年 (平成15年)
協会運営	10/5 50周年祝賀会 10/5 オーディオ協会賞・功績・功労 賞贈呈 (35名・2社)	4/1 中島平太郎会長退任・鹿井信雄会 長就任	3/26 会員委員会発足 (会員サービスと会員増強策の検 討) 10/23 会員増強のキャンペーン活動 開始
普及・啓発	12/6 第6回「音の匠」テルミン奏者 竹内正美氏顕彰 12/6 第8回日本プロ音楽録音賞贈呈 (20名)	12/6 第7回「CD音の匠」20名顕彰 12/6 第9回日本プロ音楽録音賞贈呈 (54名)	12/5 第8回「音の匠」放送番組制作 3名を顕彰
展示会・催事	10/5~8 オーディオエキスポ(東京 ビッグサイト) 10/5 50周年セミナー・超伝導スピー カー報告会 (担当:次世代オーディオ機器研 究委員会) 2/2 オーディオフェスタ・イン・ナゴ ヤ 「DVDオーディオとSACD」講 演・デモ	12/6 JASコンファレンス2002 「CD20年の軌跡」	10/23~26 A&Vフェスタ2003 (パシフィコ横浜、楽器 フェアと同時開催)
情報提供 (JAS Journal・ ネット)	J.J. 1月号「21世紀の展望」特集 J.J. 10月号 50周年特別号「オー ディオの世紀」 50周年記念CD「音でたどるオー ディオの世紀」 7/21 新URL (jas-audio.or.jp) 開設	J.J. 4月号「DVD関連商品」特集 J.J. 7月号から月刊を年8冊刊行に変 更 10/1 ホームページの新旧URL一本化 (plaza2.mbn.or.jp → jas-audio.or.jp)	J.J. 1月号「最近のディスク記録技 術」特集 J.J. 10月号「デジタル放送の魅力」 特集
調査研究・基準作成	2/22 デジタル圧縮オーディオ検討委 員会発足 (6/19 JEITAとの連絡会発 足) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒 布 1,194枚	7/3 メモリーオーディオ評価音源案を JEITAに提案 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒 布 785枚	11/11 AA・AV部会発足 (マルチチャンネルオーディオ の課題検討) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒 布 816枚
人材育成	9/4 オーディオビジュアル通信教育 技能士検定(3名) (講座の販売店受講者44名)		
交流・協力	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会 の後援・協賛 7件	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会 の後援・協賛 7件 5/15~17 プロオーディオ総合機器展 共催	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会 の後援・協賛 7件
出来事	1/6 省庁再編で経済産業省・総務省発 足 1/22 e-Japan戦略策定 2/13 「1ビットオーディオコンソーシ アム」設立 3/19 NHK、初の5.1サラウンド放送 実施 4/1 家電リサイクル法施行 4/26 小泉純一郎内閣 9/11 アメリカ同時多発テロ 10/24 「iPod」発表	1/1 ユーロ現金通貨として流通 3/1 邦盤DVDオーディオソフト発売 (日本コロムビア) 4 第3世代携帯電話サービス開始 (au/KDDI) 11/18 「着うたサービス」開始発表 (au/KDDI)	4/10 BDレコーダ発売(ソニー) 5 MPEG-4 AVC/H.264規格制定 12/1 地上デジタル放送開始 (東京・大阪・名古屋)

付表2 日本オーディオ協会の歩み (2004~2006年)

	2004年 (平成16年)	2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)
協会運営	2/5 東海地区会員例会 (オーディオフェスタ・イン・ナゴヤ会場) 4/1 東議決裁・経理規程の整備運用 4/1 シニア割引制度開始	2/5 東海地区会員例会 (オーディオフェスタ・イン・ナゴヤ会場) 4/1 個人情報保護規定を制定 7/1 事業改革検討委員会 (年度内に10回開催) (事業内容と収支の改革案を次年度計画に反映) 7/4 首都圏地区会員例会 (NHK技研会場)	4/1 年会費改定 (個人賛助会員、ネット登録無料) 6/23 普及推進部会発足 (サラウンド・サウント啓蒙・青少年啓蒙・体験機会の提供) 9/28 普及推進部会のワーキンググループ準備会 (視聴機会の提供についての検討)
普及・啓発	12/6 第9回「音の匠」スポーツ分野貢献の3名を顕彰 1/28 第10回日本プロ音楽録音賞贈呈 (26名) 12/6 第11回日本プロ音楽録音賞贈呈 (28名)	12/6 第10回「音の匠」音楽制作の3名を顕彰 12/6 第12回日本プロ音楽録音賞贈呈 (27名) 12/4~5 「スピーカー工作教室」(川崎KSP)	12/6 第11回「音の匠」エッセイスト三宮麻由子氏を顕彰 12/6 第13回日本プロ音楽録音賞贈呈 (27名) 12/1~15 「音の日」旬間キャンペーン (11社参加) (ショールームへ行く)
展示会・催事	9/22~25 A&Vフェスタ2004 (パシフィコ横浜、入場無料化) 12/6 JASコンファレンス2004「サラウンドの最新情報」 2/6 オーディオフェスタ・イン・ナゴヤで「オーディオトーク」開催	9/21~24 A&Vフェスタ2005 (パシフィコ横浜) (特別セミナー:最前線の立体音響) 12/6 「音の日」記念講演会「音の匠」に聞く 2/3 オーディオフェスタ・イン・ナゴヤで「音の匠」講演開催	9/21~24 A&Vフェスタ 2006 (パシフィコ横浜) (自作オーディオ自慢大会新設) 2/3 オーディオフェスタ・イン・ナゴヤ2006で「音の匠」イベント 12/6 「音の日」記念講演会:三宮麻由子氏・小林和男氏
情報提供 (JAS Journal・ネット)	J.J. 7月号「栄光のコンボ」特集 J.J. 7月号「テープ録音機物語」連載開始 8/2 「マルチチャンネルオーディオ」ホームページ開設 (JEITAと協力) (http://www.jas-audio.or.jp/m:AA ・AV部会監修)	J.J. 4月号「音楽制作現場の最新動向」特集 7/1 ホームページリニューアル (会員ページ設置) 7/5 A&Vフェスタホームページ (www.avfesta.com) 開設 10/5 会員向けe-mail配信開始	J.J. 4月号から印刷・配送をネット配信に切替え J.J. 4月号「オーディオ・AVと住環境」特集 5/1 サラウンドwebにリニューアル 8/18 JASホームページ内容リニューアル (会員ID・パスワード整備・更新)
調査研究・基準作成	2/4 JEITA暫定規格「メモリーオーディオの音質表示」作成協力 (担当:旧デジタル圧縮オーディオ検討委員会) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布 451枚	1/30 20世紀の産業遺産にオーディオ機器77品目登録 (http://sts.kahaku.go.jp/sts/result.php?c=1048) (国立科学博物館事業に編集委員会が協力) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布 693枚	3 JEITA「サラウンド表記についてのガイドライン」作成協力 (これに伴いサラウンドwebをリニューアル) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布 533枚
人材育成			
交流・協力	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件 6/4以降 JEITA MCA専門委員会にオブザーバー出席	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件 5/25~27 「映画テレビ技術2005」ワークショップ開催協力	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛6件 6/6~8 「映画テレビ技術2006」共催 (PAS)
出来事	3/31 EMDサイト「mora」開始 (レーベルゲート) 4/27 世界初のHDD&DVDレコーダ発売 (東芝) 10/4 「Blu-ray Disc Association」発足 11/18 「着うたフルサービス」開始発表 (AU)	1/23 日本音楽スタジオ協会「Pro Tools技術認定試験」 3/25~9/25 愛知万博でスーパーハイビジョン展示 (NHK) 4/1 個人情報保護法施行 8/4 「iTune Music Store」日本サービス開始	9/26 安倍晋三内閣 11/3 BDソフト発売 (ワーナー、ソニービクター等)

付表3 日本オーディオ協会の歩み (2007~2009年)

	2007年 (平成19年)	2008年 (平成20年)	2009年 (平成21年)
協会運営	4/26 サラウンド・サウンドWG (SSWG) 発足 7/6 視聴イベントWG発足 12/7 法人制度改革の特設委員会で検討開始	1/16 55周年祝賀会 1/16 オーディオ協会賞贈呈 (4名・1社) 6/11 鹿井信雄会長退任・校條亮治会長就任 7/28 専門懇話会開催 11/7 生録普及委員会発足	2/19~ 事業・財政検討委員会 (協会活動および運営の刷新の検討) 3/25 協会活動と運営の指針 (ビジョン) 発表 7/9 第3世代オーディオ普及委員会発足 7/15 デジタルホームシアター普及委員会発足 11/6 内閣府に一般社団法人移行を申請
普及・啓発	12/6 第12回「音の匠」東京都水道局の8名顕彰 12/6 第14回日本プロ音楽録音賞贈呈 (30名) 1/13 「手作りCDプレーヤー工作教室」(新宿) 3/24、8/19、9/9 「スピーカー工作教室」(3カ所) 11/25~12/25 「音の日」旬間キャンペーン (15社参加)	12/4 第13回「音の匠」中村啓子氏・山下桜氏顕彰 12/4 第15回日本プロ音楽録音賞贈呈 (35名) 4/23 サラウンドシンボルマーク制定発表 4/21~5/31 「サラウンドの日」体感視聴会 (延べ115回) 4/20、6/7、9/15 青少年向け普及活動 (広島、横浜、小金井) 11/初~12/末 「音の日」旬間キャンペーン (14社参加)	12/6 第14回「音の匠」オルゴール音継承3名顕彰 12/6 第16回日本プロ音楽録音賞贈呈 (34名) 4/25~5/31 「サラウンドの日」体感視聴会 (13社参加) 6/30、9/12 青少年向け普及活動 (横浜) 11/初~12/末 「音の日」旬間キャンペーン (14社参加)
展示会・催事	8/21~24 軽井沢オーディオサロン開催 12/6 CD25周年記念シンポジウム開催 (CDs21ソリューションズと共催)	2/23~25 A&Vフェスタ 2008 (パシフィコ横浜) 4/23 「サラウンドの日」制定記念大会 (JEITA共催) 5/3~6 NHK「渋谷DE ビーも'08」でサラウンドデモ 8/16~24 軽井沢オーディオサロン開催 12/4 「音の匠」トークセッションと「身体で聴こう音楽会」	2/21~23 A&Vフェスタ 2009 (パシフィコ横浜) (2/21~22 生録会を実施: PASと共催) 11/13~15 オーディオ&ホームシアター展 in Akiba 2009 5/2~5 NHK「渋谷DE ビーも'09」でサラウンドデモ
情報提供 (JAS Journal・ネット)	7/27 「築地だより」配信開始 J.J. 4月号「最近のスピーカー・システム」特集	J.J. 1月号「CD25周年」特集 5/1 サラウンドwebを独立ドメインに (http://surround.jp/) 12/15~ 雇用安定化と金融危機対策の情報配信	7/1 J.J. バックナンバーの一般公開開始 J.J. 1月号「高音質ディスク」特集 J.J. 11月号 JASジャーナル通巻400号記念号
調査研究・基準作成	7~8 サラウンド アンケート調査 (SSWG) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布496枚	9~10 第2次サラウンド アンケート調査 (SSWG) 4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布460枚	4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布196枚
人材育成			7 ホームシアター取扱い技術者育成講座の検討開始
交流・協力	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件 6/5~7 「映画テレビ技術2007」共催 (PAS)	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件 12/24 モバイルオーディオ連絡会発足	4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件 8/7 モバイルオーディオ推進協議会 (MAPI) 発足
出来事	4/1 デジタルラジオ開始 9/25 福田康夫内閣 10/1 日本郵政グループ発足	7/4 ダビング10導入 7/11 「iPhone」日本発売 9/15 リーマンブラザーズ経営破綻 9/24 麻生太郎内閣 12/25 着うたフルプラス サービス開始	5/15~11/3/31 エコポイント制度 9/16 鳩山由紀夫内閣

付表4 日本オーディオ協会の歩み (2010~2012年)

	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)
協会運営	2/1 役員推薦委員会発足 6/10 総会にて定款変更を承認 (個人賛助会員は学生だけに変更) 7/16 專業部会発足 8/5 ソフト普及委員会(專業部会と連携して活動)	3/21 一般社団法人移行認可 4/1 一般社団法人日本オーディオ協会に移行 8/11 60周年記念事業検討委員会発足 11/1 中期事業計画検討委員会発足	60周年記念行事(予定) 4/11 中期事業計画策定 4~ 中期事業計画に基づく委員会の改変 10 法人正会員会費見直し
普及・啓発	12/6 第15回「音の匠」活動弁士 澤登翠氏顕彰 12/6 第17回日本プロ音楽録音賞贈呈(32名) 4/24~5/31 「サラウンドの日」体感視聴会(延べ72回) 11/初~12/末 「音の日」旬間キャンペーン(10社参加)	12/6 第16回「音の匠」尺八奏者 三橋貴風氏顕彰 12/6 第18回日本プロ音楽録音賞贈呈(29名) 4/23~5/31 「サラウンドの日」体感視聴会(全国17カ所)	3/17~6/16 音のサロン「PCオーディオ入門講座」 4/21~5/31 「サラウンドの日」体感視聴会 5/1 ホームシアターセミナー&体感視聴会(日比谷) 6/30 ホームシアターセミナー
展示会・催事	11/21~23 オーディオ&ホームシアター展 Tokyo(秋葉原) 5/1 サラウンド生放送デモ(NHKと合同:秋葉原UDX) 5/1~4 NHK「渋谷DE ぞーも'10」でサラウンドデモ 6/19 ライブレコーディング(生録会)松本記念迎賓館	10/21~23 オーディオ&ホームシアター展 Tokyo(秋葉原) (專業部会・ソフト普及委員会連携の「音のサロン」開催)	10/21~23 オーディオ・ホームシアター展(秋葉原)
情報提供 (JAS Journal・ネット)	4/1 ホームシアターサウンドWebを新設 (http://hometheater-s.jp/) J.J. 5月号 JASジャーナル隔月配信に J.J. 9月号 パノラマ画像の「試聴室探訪記」連載開始	3/14~ 震災対策情報発信(経済産業省と連携) J.J. 1月号 オーディオ&ホームシアター展セミナー報告特集	J.J. 1月号 サラウンドスピーカー配置許容度調査報告 J.J. 1・3月号 オーディオ&ホームシアター展特集
調査研究・基準作成	4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布360枚	4/1~翌3/31 評価・測定用ソフト頒布133枚 11 DHT WG-2 サラウンドスピーカー配置ガイドライン制定 モバイルオーディオチェックコンテンツの配信	
人材育成	9/4~5 DHTインストラクター講座(JDPC3級)開設 (DHT取り扱い技術者資格認定制度発足)	2/19~20 DHTインストラクター講座(JDPC3級)開催 4/15~17 DHTインストラクター講座(JDPC2級)開催	1/25~26 DHTインストラクター講座(JDPC3級)開催 2/7~8 DHTインストラクター講座(JDPC2級)開催 2/22~24 DHTインストラクター講座(JDPC1級)開催 3/31 DHT取り扱い技術者資格認定者計61名に 4/14~15 「東北オーディオフェア in 杜の都」後援
交流・協力	11/21~23 モバイルオーディオ推進協議会(MAPI) (オーディオ&ホームシアター展でMAPIコーナー展示) 4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛5件	5~ 震災被災学校への機器・CD提供(13校・法人) 4/1~翌3/31 オーディオ関連展示会の後援・協賛4件	
出来事	5/28 「iPad」日本発売 6/8 菅直人内閣	3/11 東日本大震災 4/1 NHK BSハイビジョン2波に 7/24 地上・BSアナログテレビ停波(被災3県を除く) 9/2 野田佳彦内閣	5/22 東京スカイツリー開業 10/5 ザ・ビートルズ レコードレビュー50年